

建設残土の埋立については、以前から大きな社会問題となり、全国的に農地転用の許可が厳しくなっていますので、貴重な残土処理のための埋立は許可されなくなりましたが、本件のような作物転換を口実とした農地造成による残土処理の手法は、法令の隙間を衝いた新たな手口として今後広がっていくものと思われます。野田の目吹と木野崎の周辺は、休耕田の埋立が進行し、残土の山や資材置き場や自動車の解体ヤードなどが無秩序に広がる場所となっています。このまま放置すると、野々下と古間木に広がるこの良質な里山環境が失われ、目吹や木野崎のような治安環境に問題のある場所のなることが懸念されます。

2 野々下・古間木に広がる谷津を含む里山環境について

「古間木の里山」は、流山市都市計画マスタープランの中では緑と水辺のネットワークづくりの中心として自然景観を保全すべき地域として位置づけられ、流山市みどりの基本計画の中でも、総合運動公園の再整備などと並ぶ4つの重点プロジェクトの一つとして、「思井～芝崎、古間木～野々下地区の連続性あるみどりの保全プロジェクト」および、保全配慮地区に位置付けられています。また、生物多様性ながれやま戦略の中でも重点地区に選定されており、環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている猛禽類のサシバや千葉県最重要保護生物に指定されているニホンアカガエルやヘイケボタルなどが繁殖する貴重な場所です。その自然環境の特徴は、中心に位置する水田を中心とする谷津とその周辺広がる雑木林の斜面林にあります。谷津と斜面林が複雑に入り組むことで、多様な生き物の生息が可能な里山環境が形成されています。水田で卵を産み成長して森に帰るニホンアカガエルなどの生き物を狙って、猛禽類のサシバなどが営巢中に必要な餌を捕ることが出来ます。その中で水田の湿地環境が失われると、食物連鎖の重要な輪が途切れ生物の多様性が大きく損なわれることとなります。

また、「古間木の里山」は昔から地域の人たちの憩いの場として利用されており、朝晩には多くの人たちが散歩にきてストレスを解消しています。この地域にはいくつかの福祉施設も点在し、施設を利用する方たちにも良質な自然環境を提供しています。

